

令和3年度圏域の事業計画・収支計画

(中部地区)

(吉身学区
玉津学区)

守山市地域包括支援センター

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	総合相談支援業務		
基幹からの重点事項	担当地区における地域の相談拠点となるよう広くセンターの周知・啓発を行うとともに、住民に地域の相談窓口として認識してもらえるような取組を進めること。併せて、各学区ごとの高齢者および関係機関等の状況を把握し、円滑なセンター運営のためのネットワーク構築を図ること。また、総合相談フローに基づく緊急度のアセスメントを適切に行い、状況に応じた迅速な対応をめざすこと。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 地域におけるネットワーク構築	担当地区における民生委員・児童委員、生活支援コーディネーターや関係機関等との信頼のおける関係を作り、ネットワークの構築を行う。		○	
	自治会館に頻繁に足を運ぶようにし、会館職員や地域住民と顔の見える関係づくりを行い、地域のネットワークやインフォーマルサービス等を把握する。		○	
2 高齢者の実態把握	地域の会議や行事等でのチラシ配布や圏域地域包括支援センター主催の行事を行うことで、地域住民・事業所等に中部地域包括支援センターの周知を行い、地域からの情報収集を図る。		○	
	訪問や地域の会議への出席、自治会館等での聞き取り、統計の分析などから地域の特性を把握する。	○		
3 相談窓口機能	初期のアセスメントを適切に把握し、ニーズの把握を的確に行う。課題整理を行った上で適切な機関、制度、サービスにつなげる。	○		
	相談内容は事業所内で共有し、緊急時担当者が不在でも速やかな対応ができるようにする。	○		
4 専門的な相談支援	困難事例については各職種の特色を生かしながら課題整理を行い、支援の方向性を明確化し対応を行う。必要に応じて基幹型、関係機関職員と連携して対応する。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	民生委員・児童委員からの相談に対し即応・報告を心掛け、少しずつではあるが気軽に相談できる関係を構築できている。学区広報に毎月記事を掲載していただき、業務内容や取り組みなどをアピールすることで住民への認知度が上がってきた。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	自治会館等に積極的に足を運び、関係者との顔の見える関係づくり、中部包括の周知に努められていた。今後も、引き続き地域に足を運び、関係者・関係機関とのネットワークの構築に努めていただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	権利擁護業務		
基幹からの重点事項	住み慣れた地域で高齢者が尊厳ある暮らしができるよう、権利擁護のための諸制度の活用を支援すること。虐待対応について、緊急性を常に意識し、必要に応じて基幹型と連携するなか迅速な対応を行い、早期の終結をめざすこと。また、地域住民や事業所等に対し、虐待の予防につながる取組を実施すること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 高齢者虐待への対応	総合相談や訪問等の中で、高齢者虐待の可能性を視野に入れ、必要に応じて高齢者虐待対応を行う。		○	
	通報を受理したときは、虐待支援マニュアルに基づき、必要に応じて基幹型包括と連携し迅速に対応する。必要に応じて高齢者虐待対応支援ネットを活用し、高齢者への支援方法を検討する。	○		
2 成年後見制度等の活用促進	権利擁護事業、成年後見制度など高齢者が適時活用できるよう関係機関や住民への周知啓発を行う。			○
	認知症などにより判断能力の低下がみられる方には成年後見制度の活用を支援する。		○	
3 消費者被害の防止	訪問時やサロン、圏域包括主催の行事等にて消費者被害の有無などの情報を収集し、消費者被害予防の周知・啓発活動を行う。		○	
	消費生活センターや警察等と連携を図り、被害にあった高齢者の状況等について把握を行い、再発防止の支援を行う。		○	
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	通報を受けた際の対応は基幹型包括や長寿政策課と連携し迅速に対応できた。成年後見制度や消費者被害防止の周知・啓発活動については、コロナ禍での地域サロン中止や自主開催教室の規模縮小により十分にできなかった。次年度においては「こもればカフェ」などで周知啓発を図りたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	虐待対応については、関係者と連携を図りながら迅速に対応できている。成年後見制度、消費者被害等については、今後の活動の中で周知啓発に努めていただきたい。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務		
基幹からの重点事項	地域の高齢者等が本人の能力を活かしながらその人らしい暮らしを継続でき、課題解決のために社会資源を自己決定により活用できるよう、介護支援専門員の活動を支援すること。地域全体のケアマネジメント力の向上に向け、地域の主任介護支援専門員とともに介護支援専門員の資質および対応力の向上に取り組むこと。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 包括的・継続的ケアマネジメント支援	介護支援専門員が抱える困難事例について、共に課題を整理し支援の方向性について検討し、後方支援を行う。		○	
	個々の困難事例の抱える課題を整理し、地域の課題として捉える視点を介護支援専門員と共有し、解決策を検討する。		○	
2 包括的・継続的ケアマネジメントを行うための環境整備	地域の高齢者に関わる団体、事業所の活動内容を把握し、実際に足を運んで顔の見える関係づくりを推進する。		○	
	地域の主任介護支援専門員と共に、介護支援専門員のアセスメント力や対応力の向上を目指す。		○	
3 地域におけるネットワーク構築	地域住民と介護支援専門員との顔の見える関係づくりのために、事例検討等共に地域課題を検討する機会をつくる。			○
	介護支援専門員が抱える個別の問題や課題から、支援に必要な地域のネットワークを把握、検討する。		○	
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	中部包括からケアマネジメントを依頼したケースに対し、介護支援専門員と一緒にアセスメントやプランの方向性を確認しながらケアプラン作成を行った。介護支援専門員との事例検討会や地域のネットワークとの接点を作る機会を設けることが十分にできていなかったので、次年度においては介護支援専門員との事例検討会の取り組みを行う。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	個々のケースにおいて、介護支援専門員と連携を図りながら支援ができていた。介護支援専門員の後方支援として、職員のスキル向上に努め地域のネットワークづくりに取り組んでいただきたい。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	在宅医療・介護連携推進事業		
基幹からの重点事項	地域住民に対して在宅医療や看取りについての情報を広く周知し、在宅医療・介護連携サポートセンターと連携を図るなか、身近な地域で高齢者や家族等が安心して相談できる体制整備を行うこと。出前講座や各種教室等の機会を活用して、エンディングノートの普及啓発・活用促進を図ること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫してできている	できている	工夫が必要
1 在宅医療・介護連携事業の周知・啓発	中部包括において、市民への在宅療養・看取りやエンディングノートの普及啓発活動に関する出前講座を開催する。			○
2 在宅医療・介護連携に関する相談支援	病院からの退院時等、在宅医療・介護連携サポートセンターとの連携を図り、在宅療養、看取りの推進に取り組む。		○	
3 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携	本人や家族が不安なく最後まで自宅で療養できる支援体制を整えるため、在宅医療・介護連携サポートセンターや病院等が行う事例検討会や研修会等に参加し、事例に対する多職種連携の実践を学び、顔の見える関係づくりを推進する。	○		
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	病院の地域連携室との連携や病院との事例検討会への参加により、顔の見える関係づくりを構築できた。在宅看取りやエンディングノートの普及・啓発活動はコロナ禍で思うようにできなかったため、次年度は家族介護教室やこもれびカフェを活用し普及・啓発を行う。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫してできている	できている	工夫が必要	事例検討会への参加などを通じて、関係機関と顔の見える関係づくりに努められていた。エンディングノートの普及啓発やACP(アドバンスケアプランニング)の推進に努め在宅療養・看取りの推進に取り組んでいただきたい。
			○	

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	認知症総合支援事業		
基幹からの重点事項	認知症の人やその介護者等が地域で安心して暮らすことができるよう、正しい知識の普及啓発を図ること。認知症初期集中チームとの連携を図り、認知症の早期発見・早期支援に努めること。また、介護者の負担軽減のための取組を進め、行方不明高齢者等SOSネットワーク事前登録制度について周知啓発を行い、行方不明時の早期発見・対応に努めること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 認知症に関する正しい知識の普及啓発	守山市キャラバンメイト、認知症サポーターとの顔の見える関係づくりを構築し、情報交換の機会をつくり、啓発活動の内容を検討する。		○	
	認知症サポーター養成講座の未実施の地域を把握し、積極的に講座開催に係るアプローチを行い、地域に認知症の正しい知識の普及啓発を図る。	○		
2 認知症初期集中支援の推進	「もの忘れ相談プログラム」をサロン等で活用し、認知症の早期発見・早期治療・早期支援につなげる。	○		
	早期から認知症の人に関わり、必要な医療や適切なサービスにつなぐことにより重症化の予防に努める。		○	
3 認知症の人やその家族への支援	認知症による行方不明高齢者への迅速な訪問活動、関係機関との連携による対応を実施する。発見後も継続的な支援を行う。		○	
	認知症の人やその介護者が集い、介護者の負担軽減や悩みの解消ができる居場所づくりや相談場所として認知症カフェを開催する。新型コロナウイルス感染拡大防止の対応や参加しやすい場所での開催を検討する。		○	
4 その他	行方不明高齢者SOSネットワーク事前登録を推進し、行方不明となった場合に早期発見・対応ができるよう支援する。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	自治会長会や総務委員会などで認知症サポーター養成講座をアピールした結果、未実施だった自治会で養成講座を開催することができた。認知症カフェもコロナ禍の影響の中、なんとか初年度に開催することができた。人の往来の多い図書館で開催できる運びとなり、次年度は様々な人の参加を促進したい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	行方不明高齢者の家族へ丁寧に対応し、認知症カフェについては開催場所を工夫しながら年度内に開設できた。今後も、認知症の正しい知識の普及や早期発見・対応に取り組んでいただきたい。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	地域ケア会議推進事業		
基幹からの重点事項	地域ケア個別会議を開催し、課題の抽出を行うなか、担当地区の実情に応じた取組、資源開発、政策提言等に努めること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 地域ケア 会議の開催	介護支援専門員と協働のもと、中部地区のケースを地域ケア個別会議にあげ、地域の現状や課題を抽出する。		○	
2 資源開発 および政策提 言	地域ケア個別会議での検討事項や解決困難な事例の課題を整理し基幹型包括に報告するとともに、地域ケア推進会議などで政策提言を行う。		○	
	学区ごとの地域づくりの会議に参加し、地域課題に対して地域住民主体の活動の推進を支援する。		○	
3 その他				
圏域の 自己評価	事業全体についての総括			
	基幹包括主催の地域ケア個別会議にて、担当地域の地域課題の一例を取り上げ、提言することができた。圏域包括主催の地域ケア個別会議についても、1事例ではあるが開催でき、関係機関との課題整理・役割分担を行うことが出来た。			
基幹からの 評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	市の地域ケア個別会議では、支援困難ケースの課題検討に努めた。今後は、個々のケースや中部包括主催の地域ケア個別会議の事例を積み上げながら地域課題の抽出の視点で取り組んでいただきたい。
			○	

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	任意事業	家族介護支援事業		
基幹からの重点事項	家族介護者等への支援のため、家族介護者教室等の事業を実施すること。対象者や内容の選定等について、担当地区の地域特性に応じて検討し、多くの住民の参加を促すこと。また、認知症家族介護者訪問等を活用し、介護の実態把握を行い、介護者負担の軽減および虐待防止の取組につなげること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 家族介護者支援事業	家族介護者教室を5回シリーズ年1回開催し、介護の知識・技術の習得と参加者の交流による介護負担の軽減を図る。		○	
	中部地区における男性高齢者（介護者含む）の交流の状況やニーズを把握し、交流の機会を増やせるよう方策を検討する。		○	
2 家族介護者訪問	支援が必要な介護者に対し、継続した訪問でフォローを行い介護に対する不安や負担感の軽減に努める。	○		
	認知症介護者に対し訪問を行い、介護者の健康状態と介護状況を把握する。また、介護支援専門員と連携し介護者の介護負担の軽減が図れるよう支援する。		○	
3 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	コロナ禍の影響で家族介護教室が2回しか開催できなかった。しかし申し込みは定員まであったためニーズが高いことがわかり、次年度においてもニーズを反映した家族介護教室を行っていきたい。男性高齢者のニーズや交流状況についてケースを通じて聞き取りを行い、基幹包括・圏域包括と共同で開催した「ケアメン・イケオジプロジェクト」での反応も含め、交流の機会の持ち方や勧誘方法について検討する。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	内容を工夫しながら教室の企画に努めていた。コロナ感染症により、開催が難しい状況もあったが、感染対策に留意しながら、介護者の介護負担軽減に向けた取組を推進していた。ただ、
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	介護予防・日常生活支援総合事業	介護予防ケアマネジメント		
基幹からの重点事項	高齢者のフレイル(虚弱)予防のための取組を進め、自費サービス、サービス未導入者などについて、フォーマル、インフォーマルサービスの活用促進を検討し、地域において自立した生活を送ることができるよう支援すること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況(自己評価) ※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 自立支援・重度化防止等への取組	新型コロナウイルスによる閉じこもりからのフレイル予防に重点をおき、「守山プラス体操」のDVD等を活用することで自宅でもできる運動の普及を促進する。さらに高齢者が地域での活動の場に参加できるように情報提供や働きかけを行う。	○		
	「お口のフレイル」予防の必要性について知識を深め、出前講座等を活用し、「お口のフレイル」予防の啓発に努める。	○		
2 自費サービス利用者、サービス未導入者等への支援	生活機能を改善する必要がある高齢者に対してアセスメントし、生活動作の改善に必要な運動器の機能向上を目指す等適切なサービス利用につなげる。		○	
3 介護予防ケアマネジメント委託における事業所選定の公平性・中立性の確保	基幹型包括と情報共有し、公平中立な事業所選定を行う。		○	
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	地域のサロンや健康教育にて「お口のフレイル」予防を積極的に働きかけ、在宅歯科医療連携室とも連携し歯科衛生士を出前講座に派遣してもらうなどして啓発活動を行った。コロナ禍の中、地域のサロンが中止になり自宅でもこもりがちな高齢者に対し「守山プラス体操」のパンフレットやDVDを訪問時に配布し、自宅でもできる運動の普及・啓発に努めた。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	関係機関と連携して改善に向けた啓発活動が実施できていた。今後も、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう介護予防の推進に向けて取組を行っていただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 中部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	介護予防・日常生活支援総合事業	一般介護予防事業		
基幹からの重点事項	地域での通いの場の状況について把握を行い、住民が自ら参加できるように支援を行うこと。守山百歳体操や守山健康のび体操の活用等、あらゆる機会を利用して介護予防の必要性や取組について啓発を行うとともに、身近な地域における自主グループ活動の継続的な取組を支援すること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 介護予防 把握事業	総合相談・訪問などから閉じこもり等で支援を必要とする人を早期に把握し、地域での通いの場などへの参加を促進する。		○	
	地域に向けての介護予防の出前講座を実施し、地域全体での介護予防の意識の向上を図る。	○		
2 介護予防 普及啓発事業	介護予防自主グループに対し、守山百歳体操等の継続実施に向けた後方支援を行う。			○
	介護予防教室や出前講座を実施し、各地域で介護予防活動の輪が広がるように支援する。	○		
3 地域介護 予防活動支援 事業	中部地区の各自治会において、高齢者の居場所・介護予防活動支援の拠点となる取組を推進する。			○
4 地域リハ ビリテーショ ン活動支援事 業	守山百歳体操、守山健康のび体操を基幹型と連携し普及啓発に努めることで、自主的な介護予防の取組を推進する。			○
5 その他				
圏域の 自己評価	事業全体についての総括			
	コロナ禍で地域での集まりがなかなかできない状況だったため、自主グループ支援はほとんど行うことができなかった。一方で出前講座の依頼の際は体操だけでなく栄養や口腔など広い視点でのフレイル予防を普及・啓発するよう努力した。			
基幹からの 評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	出前講座等の機会を活用し、介護予防・フレイル予防の周知啓発に努められていた。地域に積極的に出向くことで自主活動の推進支援に取り組んでいただきたい。
			○	